**拠点構想**

※A4 20ページ以内で作成すること。

**拠点名：** （20字以内で記載、英語では15 words以内で記載）

**ホスト機関：**

**ホスト機関の長名：**（氏名、役職を記載）

**拠点長候補者：** 　（氏名、所属、役職を記載）

* 添付資料１　「拠点長候補者個人票」を添付すること。
* 添付資料２　「拠点が対象とする研究分野で世界的な業績のある研究者からの拠点長候補者の推薦状」を添付すること。

**事務部門長候補者：** 　（氏名、所属、役職を記載）

* 添付資料３　「事務部門長候補者個人票」を添付すること。

**１）拠点形成の全体像**

* WPI拠点としてのミッションステートメント、拠点のアイデンティティー及び本プログラムにより達成すべき目標を、明確かつ簡潔に記載すること。

**２）研究内容**

**２）-1. 研究領域**

* 研究領域の名称を記載すること。
* 研究対象として取り組む重要性（当該研究領域及びその周辺領域における国内外の動向、科学的及び社会的意義）について記載すること。
* 当該研究領域にWPI拠点として取り組むに価する理由について記載すること。（我が国の優位性、科学技術上の世界的な課題に挑戦し、国際的な魅力があること、当該学問分野の将来性等）
* 対象研究領域ないしは関連研究領域における他の世界的研究拠点を列挙し（5機関まで）、それとの比較でどのようなレベルにあるかを評価すること。
* 添付資料４　「拠点構想に関係が深い英文の論文（10件以内、レビュー論文も可）とそのリスト」を添付すること。

**２）-2. 研究達成目標及び計画**

* 助成期間終了時（10年後）の研究達成目標を一般国民にも分かり易い形で明確に記載すること。その際、どのような科学技術上の世界的な課題の解決に挑戦するのか、またその実現により、将来、どのような社会的インパクトが期待できるのか、をできるだけ分かり易く記載すること。
* 上記目標を達成するための研究活動面の具体的計画及び関連するこれまでの実績を記載すること。

**２）-3. 研究推進体制**

* 研究組織、支援組織、事務組織等の研究体制を、構築の考え方及び人員構成を含め記載すること。
* 組織構築の最終目標を達成するための具体的計画（時期・手順など）を併せて記載すること。
* サテライト的な組織を設置して国内外の他の機関との連携を行う場合は、当該連携先機関の名称、拠点構想における役割、人員構成・体制、ホスト機関と当該連携先機関の間の協力の枠組み（協定等の締結、資金のやりとりの考え方等）等について記載すること。
* サテライト的な組織を設置しないものの、国内外の他の機関との連携を行う場合は、当該機関の名称、拠点構想における役割、連携の概要等について記載すること。
* 添付資料５　「主任研究者リスト」を添付すること。（一次審査から変更があった場合は、変更理由とともに変更点を明記すること）
* 添付資料６　「主任研究員個人票」を添付すること。
* 添付資料７　「拠点を構成する人員」を添付すること。
* 添付資料８　「海外、国内他機関から招へいする研究者の拠点構想参加の意思を示した書簡」を添付すること。

ａ）主任研究者（教授、准教授相当）

* 添付資料7の表a)を貼り込むこと。

ｂ）全体構成

* 添付資料7の表b)を貼り込むこと。

**２）-4. 研究資金等の確保**

過去の実績

* 拠点構想に参加する主任研究者が過去に獲得した競争的資金等の研究費の年度別合計（平成２5年度〜２9年度）を記載すること。

拠点設立後の見通し

* 上記実績を踏まえつつ、本プログラムからの支援額と同等程度以上のリソースを、どのようにして確保するのか、具体的な見通しについて記載すること。
* その際、競争的資金等の研究費については、拠点に参画する研究者の獲得した研究費のうち、当該拠点の研究活動に充てる額を参入すること。また、研究費の獲得の見通しについては、上記実績を踏まえた現実的なものとする（平成30年度～平成34年度）。

**３）融合研究**

* 研究対象において融合される研究領域と、異分野融合の必要性と重要性、この異分野の融合等によりどのような新領域の開拓が期待されるのかについて記載すること。また、異分野融合とそれによる新たな領域の開拓を推進する戦略についても具体的に記載すること。

**４）国際的研究環境**

**４）-1. 国際的研究推進体制(拠点を構成する研究者等)**

* 拠点における外国人研究者の構成、海外機関へのサテライト的な機能の設置等、国際的研究拠点の構築に向けた具体的計画（時期的なものを含む）を記載すること。
* 研究者（ポスドク等）を国際公募により採用するためどのような措置をとるのか、手順も含め具体的に記載すること。

**４）-2. 国際標準の研究環境**

* 国際的な研究環境および事務体制の整備、海外からの研究者支援の方策（例：英語による職務遂行が可能なスタッフ機能の整備、スタートアップのための研究資金の提供など）を具体的に記載すること。
* 研究者から教育研究以外の職務を減免するとともに、研究者が快適に研究できるような環境を提供するため、どのような措置をとるのか（例：種々の手続き等管理事務をサポートするスタッフ機能を充実させる)、時期・手順も含めて具体的に記載すること。
* 世界トップレベルの研究者を集めた国際的な研究集会を定期的（少なくとも年1回）に開催するため、どのような措置をとるのか、時期・手順も含めて具体的に記載すること。

**５）拠点運営・システム改革**

**５）-1. 運営**

* 拠点長、事務部門長の役割について記載すること。
* 事務部門の構成の考え方、拠点内の意思決定システム、拠点長とホスト機関側の権限の分担等について具体的に記載すること。
* 研究成果に関する厳格な評価システムと能力に応じた俸給システム(例えば年俸制等)を導入するため、どのような措置をとるのか、時期・手順も含め具体的に記載すること。

**５）-2. 環境整備**

* 「世界トップレベル拠点」としてふさわしい研究室、居室等の施設・設備環境を整備するため、どのような措置をとるのか、時期・手順も含めて具体的に記載すること。
* 研究者の大学院教育への参画について、どのような配慮に努めるのか具体的に記載すること。
* 上記のほかに、世界から集まるトップレベルの研究者が、国際的かつ競争的な環境の下で快適に研究に専念できるようにするための取組があれば記載すること。

**５) -３．自立化に向けた既存組織の再編と一体的な拠点構築**

* 当該拠点が10年間の支援終了後に自立化するよう、新たな研究拠点形成に際して、本プログラムによる支援と既存組織の再編をどのように一体的に進めていくのか、具体的に記載すること。
* ホスト機関内で十分に調整の上、自立化のために必要となる、既存組織の再編・外部資金獲得等を含むホスト機関の中長期的な組織運営の計画・スケジュールについて、具体的に記載すること。